

鹿嶋市「鹿島中学校区」架け橋カリキュラム

R8.2.27現在

【共通の視点】として考えられる項目例		5歳児												1学年											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
育てたい子どもの姿		あそびも学びもとことんだ！！～笑顔でレツツトライ！！～																							
育みたい資質・能力		知識・技能の基礎 (遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何が分かったり、何ができるようになったりするかの) 思考力・判断力・表現力の基礎 (遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするかの) 遊びを通しての総合的な指導 学びに向かう力・人間性等 (心情・意欲・態度が育つ中で、いかにによりよい生活を営むかの) 方向目標 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ・健康な心と体 ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか) 知識・技能 (何を理解しているか、何ができるか) 「確かな学力」「健やかな心」「豊かな体」を総合的にとらえて構造化 思考力・判断力・表現力等 (理解していること、できていることをどう使うか)																							
遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと (写真の下の【 】それぞれの園や学校で展開される遊び・活動例)		話し合い活動の下地づくり 継続することが大切 下学年との関わりを知る イメージを形にする 共通のゴールに向けて活動 話す経験 集中力 想像力 挑戦 集団での遊び 相手の気持ちを考える 協力 見立てる力 好きなことをする 話し合い、伝え合い 粘り強く 自分の思いを伝える												遊びの延長 試す 振り返りをする 自分で体験→考える実践へ 遊びを工夫する 挑戦 不思議の探求（思考活動） 協力 自分の成長に気付く											
指導上の配慮事項	環境の構成	・初めは床に座り、近づいて話す。 ・やりたいことがいつでもできるように材料や時間を確保する。 ・子ども同士で話し合う場を設ける。 ・友達との自分の思いのやり合いをつける。 ・下の学年との交流の時間を設けて、自分から考えられるようにしていく。 ・椅子に座る練習を意図的に入れるため、話し合いを椅子に促す。												・1対1で友達と関わる意図的な配慮 ・意図的なグループ活動を行う。 ・子どもたちだけで考える時間を確保する。											
	先生の関わり	・話し合いに参加するのが難しい子に対して、参加できるような声掛けを行う。 ・思いを代弁し、子どもたちだけで解決できるようにしていく。 ・最終的な目的に向けて、そこに到達できるような意図的な活動を位置付ける。												・相手の気持ちを想像させる声掛けを行う。 ・話し合いの時間で、子どものつぶやきなどを意図的に拾い上げ、話を広げる。											
交流・連携計画	子ども同士	・小学1年生と年長の交流・日常の異年齢交流 ・縦割り保育 ・活動内の異年齢交流												・業間休み見学 ・給食見学 ・授業見学 ・運動会見学 ・上級生が新1年生を助け・入学前の園児を小学校の遊びに招待する。 ・（入学後）											
	先生同士	・計画訪問 ・授業参観訪問												・保幼小連絡協議会（授業参観・情報交換）											
家庭との連携	家庭教育の視点及び保護者との連携ツール	・家庭での生活習慣の見直し（早寝・早起き・朝ごはん） ・クラス懇談会 ・クラス通信便り ・個人面談 ・登降園時のコミュニケーション ・保育連絡表の活用、お知らせ欄 ・家庭でも着を使う習慣 ・登園時にスムーズに入室できるようにする。（保護者は連絡後帰ってもらう。） ・毎日の活動のドキュメンテーションの提示 ・各クラスのホワイトボード掲示（連絡事項の記入） ・保育参観（毎月・誕生月）→読み聞かせ、給食、おやつ作り												・連絡帳 ・アプリを活用したメッセージ ・電話 ・メール配信											

【家庭教育の視点】

早寝早起き朝ごはんなどの、生活リズムを身に付けましょう。

通学路をお子さんと一緒に歩いて、距離や色んな場所を確認しましょう。

家族で食事を楽しみ、食の大切さを伝えましょう。

お手本を示し、あいさつや道徳の言葉をつづけましょう。

自分のことは自分でできるように、進んで着替えましょう。

多くの自然体験や生活体験の機会を作り、子どもと一緒に楽しみましょう。

読み聞かせをして、子どもと一緒に読む時間を過ごしましょう。

メディアとの接し方を教えて、家庭のルールをつくらしましょう。

積極的にお手伝いをさせ、たくさん褒めてあげましょう。

不安なことは早めに先生方に相談しましょう。

土台となる家庭教育

架け橋期（5歳児から1年生の2年間 ～0歳から18歳までの発達連続性を見通して～）

今までの接続期のカリキュラムをベースに

アブローチカリキュラム

スタートカリキュラム